

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名：ニチケアセンター堺八田荘

作成者：染谷 一旗

作成日：2025年 3月 18日

運営推進会議における評価実施日：2025年 3月 26日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない ※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 における 外部評価	記述
I.理念・安心と安全に基づく運営						
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A	常に笑顔でをかがげ笑顔で過ごしてもらえるように実践している		
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	B	コロナ禍より地域のイベントへの参加が激減している ボランティアさんの演奏会は実施		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A	コロナ対応が多く、対面での開催が難しいことが多い		
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	B	管理者が定期的に中区グループホーム連絡会、中区主催の認知症支援部会に参加している		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	B	毎月、身体拘束廃止委員会を実施し、新しいスタッフが入職した際には個別で研修を実施	A	毎回、会議にて報告で来ている
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	A	年二回の虐待防止の研修を実施している	A	毎回、会議にて報告で来ている
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	B	キーパーソンの方が高齢の場合など積極的にお勧めしている		
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A	入居の際、個々に説明し同意を得ている。疑問点がある場合はその都度説明をしている		
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A	ご意見箱の設置や年1回の満足度アンケートを実施し改善につなげている。運営に関するご家族からの質問や意見があった場合は、直ちに検討し報告を行っている	B	十分にできている
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	A	毎月行っているホーム会議やフロア会議の場で提案できる機会を設けている		
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	B	資格取得の際の研修費負担など向上心を持って働けるように支援している。	B	十分にできている
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A	社内研修を毎月実施し、会社で集合する研修に参加を推奨している。本年度よりアプリを使って常設	B	十分にできている
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	B	感染予防の観点から難しい		
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A	掃除や料理等は職員だけで行わず入居者と一緒に行っている。		
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A	昔の写真集を開き、そのころの思い出話などを聞いている		

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名：ニチケアセンター堺八田荘

作成者：染谷 一旗

作成日：2025年 3月 18日

運営推進会議における評価実施日：2025年 3月 26日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない ※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 における 外部評価	記述
Ⅱ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	B	職員が日ごろの会話の中で得た情報を記録に残し、情報の共有をしている。モニタリングの中でご本人・ご家族の意向や思いを聞き、ケアプランを作成している。		
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A	職員が日ごろの会話の中で得た情報を記録に残し、情報の共有をしている。モニタリングの中でご本人・ご家族の意向や思いを聞き、ケアプランを作成している。	B	十分にできている
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A	日常の記録を基に介護計画の見直しをしている。	B	十分にできている
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	B	受診への付き添い時、高齢で車の運転が困難な家族に対して、自宅までの送迎を行ったり、病院へ同行し付き添いを行っている。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	A	消防署からの指導を受け、消防訓練などを実施している。		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A	毎月2回個別で各利用者様の訪問医療を提供している。希望する方へ訪問歯科、訪問眼科とも連携して支援している		
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A	入院した際には早期退院できるように支援を行っている。どこからなら施設で対応できるのかを病院へ提示している	B	十分にできている
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A	重要事項説明書に記載し同意を得ている。できるだけ馴染んだ場所で過ごしていただけるように支援する	B	十分にできている
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A	普通救急救命講習を受けている。緊急時の対応についても手順書を定めフローチャートの活用、勉強会を実施し冷静に行動できるように努めている。管理者が普及員の免許を持っている		
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A	消防訓練を隣の障害者施設と合同で年2回(内1回は立ち合い)実施している。BCP計画も作成済み	B	十分にできている

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名：ニチケアセンター堺八田荘

作成者：染谷 一旗

作成日：2025年 3月 18日

運営推進会議における評価実施日：2025年 3月 26日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない ※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会 議 における 外部評価	記述
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A	それぞれの人格や性格、認知症の症状の違いを理解し、認知症があっても、周りとの関わり方を考えその人を尊重し、今できることを見つけていけるよう努めている	B	十分にできている
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	A	食事の好み等できる限りの対応と、入浴も決まった曜日は設定しているが、気分によっては入浴日を変更して対応している。		
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	A	入居者の食べたいものを聞き取り希望のあった食事行事を開催している。また、一緒に調理を行い、食材のカットや後片付けも、できる範囲で一緒に行っている。	B	十分にできている
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A	一人一人に合わせて食事形態などを工夫している		
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A	自分でできる方は、自分で行ってもらい、できない方には介助を行っている。	B	十分にできている
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A	排泄チェック表から、個々の排泄パターンを知り、その方にあった時間で声かけをしている。また、自分でトイレに行くが失敗のある方には、自尊心を傷つけないよう配慮しながら交換している。	B	十分にできている
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	A	原則曜日を定めて入浴日を決めて、ゆったりした気分で入浴できるようにしている 週2～3回は入浴している		
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A	状況をみて臥床時間を設けたり、夜間は入居者のペースで居室に戻ってもらっている。		
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A	排便、皮膚状態、食事摂取量、体調や行動の変化があれば、訪問診療時に医師に報告している。	B	十分にできている
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	B	園芸や新聞購読等、今までの生活や趣味が継続してできるように支援している。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	B	コロナ禍より外出の機会は激減している。 庭で家庭菜園をして少しでも外に出る時間を作っている		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	A	現時点の利用者には、お金の管理については無理があるので、家族との了解で、お金を所持している利用者はいない。		
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	B	家族に電話を掛けたい時には時間帯を見て意向に沿っている。また、正月には年賀状を書き、ご家族にだしている。		
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A	静かな住宅街に位置しており、季節感が感じられる装飾も行っている。また、湿度・温度を測定し過ごしやすい空間づくりに努めている。	B	十分にできている

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名：ニチケアセンター堺八田荘

作成者：染谷 一旗

作成日：2025年 3月 18日

運営推進会議における評価実施日：2025年 3月 26日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない ※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 における 外部評価	記述
Ⅳ. 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)						
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています	B	介護計画に基づき、本人が安心して生活できるように支援している。また、日々の暮らしの中で本人が家事作業やレクリエーションを楽しみながら行えるように努めている。		
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができています	B	趣味の卓球や歌をレクリエーションや日々の暮らしの中に取り入れ、職員だけでなく利用者同士でも楽しめるように支援している。		
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができています	B	その日の状態を申し送り時に必ず確認し、状態に沿ったケアを行っている。また認知症の進行状態も都度職員で話し合いケアしている	B	十分にできている
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています	B	睡眠、食事、運動等自分のペースで行えるように声掛けやケアに努めている。本人の気分や状態に応じたケアも職員で話し合っている		
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができています	C	写真や、仏壇など本人の好み、趣味であるものを自室に置き、なじみの環境づくりに努めているが、転倒のリスクのある方や異食等のリスクのある方は設置できない場合もある。	B	状態に応じて出来ている
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができています	C	現在はコロナ禍の影響で外出や地域のイベントに参加することは難しくなっているが、ホームの敷地内に出て家庭菜園をしたり、その水やりなどをして気分転換が出来るように努めている		
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができています	B	洗濯物たたみや、本人ができる事を職員で話し合い、家事作業を役割として行い、レクリエーション・体操なども習慣として取り入れ、楽しみながら行えるように支援している。		
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができています	B	顔なじみの利用者との会話や、趣味や歌を通じて会話を楽しめるよう声掛けやケアに努めている	B	十分にできている
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができています	B	コロナ渦の影響で地域や外部とのかわりは控えている。演奏会などボランティアの方にご協力いただき交流をしている。		
49	総合	本人は、このGHIにすることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができています	B	職員は本人の希望や思いに寄り添い、安心で安全に暮らせるように努めている。また、日々の状態や表情からも気持ちを読み取り支援している。	B	十分にできている

総評

・一年を通し季節を感じていただけるよう、季節の行事に力を入れ、壁面飾りなど季節に合ったものを一緒にレクリエーションで作成している。

・家族との関係を大切に考え、面会、外出、外泊に制限をかけていない。

・利用者ひとりひとりの認知、ADL、要望に合わせその人らしく生活できるように支援している。

・日々の気づきで急変の早期発見、対応できるように環境を整えている。

・週2回散歩の日を作って外出できる機会を増やした

現状におけるご指摘事項・事業所の課題

課題

運営推進会議に家族様の参加できるようにする

指摘

運営推進会議を開催しているが、限られた出席者の参加になっている

参加者サイン欄

近隣代表 染谷 尚洋

町下 石雄平

中策 地域包括支援センター 石川 ゆえ子